

# LifeKeeper for Linux v8.2

## テクニカルアップデートインフォメーション

---



<b>1.</b>	<b>はじめに</b> .....	3
<b>2.</b>	<b>LifeKeeper for Linux v8.2 の新機能・機能変更</b> .....	3
2.1.	サポート OS の追加 .....	3
2.2.	新規 Recovery Kit の追加 .....	3
2.3.	全ての 32bit OS のサポート終了 .....	3
2.4.	Apache ARK の Listen IP アドレスの要件の変更 .....	3
2.5.	ライセンスが Non-Nodelocked ライセンスに変更.....	4
<b>3.</b>	<b>重要なバグの修正</b> .....	4
3.1.	MD デバイスのハングアップを quickCheck で検出することができない .....	4
3.2.	RHE6.x 環境で再同期の開始が遅延する場合があります .....	4
3.3.	comm_down 処理のハングアップが I/O 自体のハングアップを引き起こすことが あります .....	4
<b>4.</b>	<b>お問い合わせ</b> .....	5
<b>5.</b>	<b>免責事項</b> .....	5
5.1.	著作権 .....	5

## 1. はじめに

---

本文書では LifeKeeper for Linux v8.2 での新機能や機能変更、また、重要なバグ修正に関する概要をまとめたものです。それらに関する詳細な情報につきましては、リリースノートやオンラインマニュアルをご確認いただくか、ご契約の製品サポートにお問い合わせください。

## 2. LifeKeeper for Linux v8.2 の新機能・機能変更

---

### 2.1. サポート OS の追加

SLES 11 SP3 を新たにサポートします。

### 2.2. 新規 Recovery Kit の追加

Recovery Kit for EC2 がリリースされました。機能の詳細につきましては、Recovery Kit for EC2 オンラインマニュアルの以下の URL の情報をご確認ください。

[http://jpdocs.us.sios.com/Linux/8.2/LK4L/EC2/index.htm#recovery\\_kits/Recovery\\_Kit\\_for\\_EC2/Introduction/principles\\_of\\_operation.htm%3FTocPath%3DIntroduction%7C\\_\\_\\_\\_\\_1](http://jpdocs.us.sios.com/Linux/8.2/LK4L/EC2/index.htm#recovery_kits/Recovery_Kit_for_EC2/Introduction/principles_of_operation.htm%3FTocPath%3DIntroduction%7C_____1)

Recovery Kit for EC2 は setup スクリプトの Recovery Kit 一覧に表示されないため、必要に応じてインストールメディアの amazon/steeleye-lkECC-8.2.0-6213.noarch.rpm パッケージをインストールしてください。

### 2.3. 全ての 32bit OS のサポート終了

LifeKeeper for Linux v8.2 から 64bit OS のみをサポートします。よって、32bit の OS をご利用のお客様は LifeKeeper for Linux v8.2 へのアップグレードはできません。また、この変更に伴って、LifeKeeper をインストールする際、64bit 環境でも必要だった 32bit パッケージが必要なくなりました。必須パッケージに関する情報につきましては、オンラインマニュアルの以下の URL をご確認ください。

[http://jpdocs.us.sios.com/Linux/8.2/LK4L/TechDoc/index.htm#installation/Linux\\_Dependencies.htm%3FTocPath%3DInstallation%7CSetting%20Up%20Environment%7C\\_\\_\\_\\_\\_2](http://jpdocs.us.sios.com/Linux/8.2/LK4L/TechDoc/index.htm#installation/Linux_Dependencies.htm%3FTocPath%3DInstallation%7CSetting%20Up%20Environment%7C_____2)

### 2.4. Apache ARK の Listen IP アドレスの要件の変更

これまでの Apache ARK では LifeKeeper で保護されている仮想 IP アドレスが Apache に設定されている必要がありましたが、この要件が緩和され全ての IP アドレスを Listen する設定もサポートされます。設定の詳細については Apache ARK のドキュメントを確認してください。

## 2.5. ライセンスが Non-Nodelocked ライセンスに変更

これまで、MAC アドレスをキーとした Host ID か、IP アドレスをキーとした Host ID を使用してライセンスを取得し、それらに対応したノードにのみ適用できる Nodelocked ライセンスを使用していました。

しかし、v8.2 からは各 Host ID を使用せずノードを固定しない「Non-Nodelocked」ライセンスに変更となりました。これに伴って、v8.2 へアップグレードするには、ライセンスの再取得が必要となります。ライセンスの取得方法や詳細につきましては、ユーザーサイトのライセンス取得方法解説ページをご確認ください。

ライセンス取得方法解説ページ

[http://lk.sios.com/?page\\_id=22](http://lk.sios.com/?page_id=22)

## 3. 重要なバグの修正

---

### 3.1. MD デバイスのハングアップを quickCheck で検出することができない

RHEL6.x の環境で DataKeeper for Linux によるレプリケーションを使用している場合には、md デバイスを使用しています。RHEL6.x 環境の md デバイスの問題により、ソースノードの I/O のハングが発生することがあります。この場合の I/O のハングを LifeKeeper の監視機能の中でリカバリーをするように修正しました。この問題の詳細につきましては、ユーザーサイトの以下の URL をご確認ください。

[Linux]データレプリケーション構成においてレプリケーション領域に対するディスク I/O の応答がなくなる問題について

<http://lk.sios.com/?p=2093>

### 3.2. RHE6.x 環境で再同期の開始が遅延する場合があります

DataKeeper for Linux にて全同期が必要となったタイミングではミラーリングが開始されず、ミラーステータスが「Pending」のままとなり同期が完了しない場合があるという問題を解決しました。

3.3. comm\_down 処理のハングアップが I/O 自体のハングアップを引き起こすことがあります  
DataKeeper for Linux の全てのバージョンで、ターゲットノード（LifeKeeper のステータスではスタンバイ）が電源断によって停止や、ネットワークによるコミュニケーションパスの切断（comm\_down イベント）が発生すると、その発生タイミングによってはソースノードの I/O が停止し、ターゲットノードが復旧しても I/O が復旧しなくなることがあります。この問題を修正しました。

#### 4. お問い合わせ

本ドキュメントの記載内容について、疑問点等がある場合は弊社サポート窓口までお問い合わせください。お問い合わせの一次窓口が弊社ではない場合があります。サポート証書にてサポート窓口を確認のうえ、適切なお問い合わせ窓口にお問い合わせください。

<http://www.sios.com/products/bcp/lkdk/contact/>

#### 5. 免責事項

- 本書に記載された情報は予告なしに変更、削除される場合があります。最新のものをご確認ください。
- 本書に記載された情報は、全て慎重に作成され、記載されていますが、本書をもって、その妥当性や正確性についていかなる種類の保証もするものではありません。
- 本書に含まれた誤りに起因して、本書の利用者に生じた損害については、サイオステクノロジー株式会社は一切の責任を負うものではありません。
- 第三者による本書の記載事項の変更、削除、ホームページ及び本書等に対する不正なアクセス、その他第三者の行為により本書の利用者に応じた一切の損害について、サイオステクノロジー株式会社は一切の責任を負うものではありません。
- システム障害などの原因によりメールフォームからのお問い合わせが届かず、または延着する場合がありますので、あらかじめご了承ください。お問い合わせの不着及び延着に関し、サイオステクノロジー株式会社は一切の責任を負うものではありません。

##### 5.1. 著作権

本書に記載されているコンテンツ(情報・資料・画像等種類を問わず)に関する知的財産権は、サイオステクノロジー株式会社に帰属します。その全部、一部を問わず、サイオステクノロジー株式会社の許可なく本書を複製、転用、引用、公衆への送信、販売、翻案その他の二次利用をすることはいずれも禁止されます。またコンテンツの改変、削除についても一切認められません。本書では、製品名、ロゴなど、他社が保有する商標もしくは登録商標を使用しています。